

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年8月18日(2005.8.18)

【公開番号】特開2003-221506(P2003-221506A)

【公開日】平成15年8月8日(2003.8.8)

【出願番号】特願2002-24546(P2002-24546)

【国際特許分類第7版】

C 08 L 83/04

C 08 K 5/5415

C 08 K 5/5435

C 08 K 5/544

【F I】

C 08 L 83/04

C 08 K 5/5415

C 08 K 5/5435

C 08 K 5/544

【手続補正書】

【提出日】平成17年1月28日(2005.1.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

【実施例7】

粘度12,000mPa·sの分子鎖両末端がメチルジメトキシリル基で封鎖されたジメチルポリシロキサン100部と脂肪酸処理された炭酸カルシウム粉末(白石工業株式会社製、商品名白艶華CCR、平均粒子径0.08μm)の100部とを均一になるまで混合した。この組成物にメチルトリメトキシシラン2部、1,6-ビス(トリメトキシリル)ヘキサン2部、参考例1で得られた接着付与剤A1部およびジイソプロポキシビス(アセト酢酸エチル)チタン1部を添加し、湿気遮断下で均一になるまで混合した。

次いで、この組成物について、前記JIS A 5758に準じた接着耐久性を測定した。なお、本実施例では、接着耐久試験体を温度23、湿度50%の条件下で14日間放置して室温硬化性シリコーンゴム組成物を硬化させた。得られた接着耐久試験体について引張接着強さを測定し、合わせてシリコーンゴムの破断状態を観察した。また、この接着耐久試験体を80の温水中に14日間浸漬した後、取り出し、この接着耐久試験体について引張接着強さを測定し、合わせてシリコーンゴムの破断状態を観察した。これらの結果を表8に示した。